

平成 24 年 10 月 7 日

統計トピックスNo. 64

## 統計からみたスポーツの今昔

— 「体育の日」にちなんで —

「体育の日」（10月8日）を迎えるに当たって、7月13日に公表した平成23年社会生活基本調査の生活行動に関する結果から我が国のスポーツ<sup>注）</sup>の実施状況について、過去25年間の時系列的推移にスポットを当てて取りまとめました。

### 要 約

#### 1 現在最も盛んなスポーツ

- 男女共にウォーキング・軽い体操とボウリングの行動者率が高く、手軽で幅広い年齢層で行われるスポーツの行動者率が高い

#### 2 スポーツをした人の割合の推移

- スポーツの行動者率は20年間で一貫して低下
- ゴルフやテニスなどの行動者率はバブル末期の1991年が最も高い
- サッカーの行動者率は上昇傾向、野球とバレーボールは低下傾向

#### 3 年齢階級別にみたスポーツをした人の割合の変化

- スポーツの行動者率は、25年前と比較すると、60歳以上で上昇、60歳未満で低下、特に20～30歳代は約20ポイント低下
- 登山・ハイキングは今も25年前も60歳以上で盛んに行われている
- サイクリングとサッカーの行動者率は20歳以上で上昇、ジョギング・マラソンは20歳以上では変化が少ない
- 水泳やバレーボールなどの行動者率は、特に15～19歳で大きく低下
- ゴルフの行動者率は25～29歳、テニスなどの行動者率は20～24歳で大きく低下

#### 4 若年層におけるサッカーをした人の割合の推移

- 男性のサッカーの行動者率は、1996年以降、10歳代は低下、20歳代は上昇傾向
- 女性のサッカーの行動者率は、1986年以降、20～24歳は一貫して上昇

【用語】 行動者率…10歳以上人口に占める過去1年間に該当するスポーツを行った人の割合（%）

注）「スポーツ」は、職業スポーツ選手が仕事として行うものや、学生が体育の授業で行うものは除き、クラブ活動や部活動は含む。

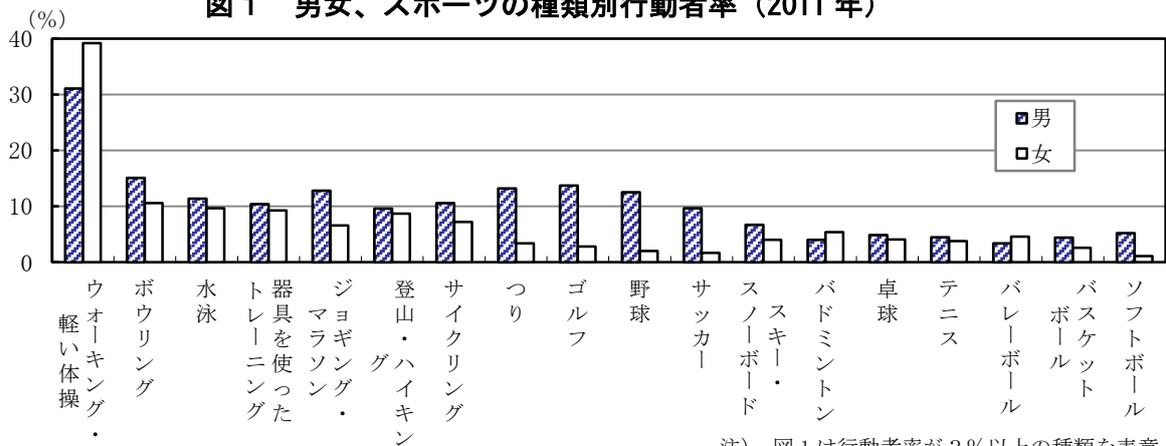
# 1 現在最も盛んなスポーツ

**男女共にウォーキング・軽い体操とボウリングをした人の割合が高い**

10歳以上の人について、過去1年間（平成22年10月20日～23年10月19日）に何らかの種類のスポーツを行った人の割合（行動者率）をみると、男性が67.9%、女性が58.3%となっています。これを種目別にみると、最も行動者率が高かった種目は、男女共にウォーキング・軽い体操で、男性が31.1%、女性が39.2%となっており、次いでボウリングで、男性が15.1%、女性が10.6%となっています。（図1）

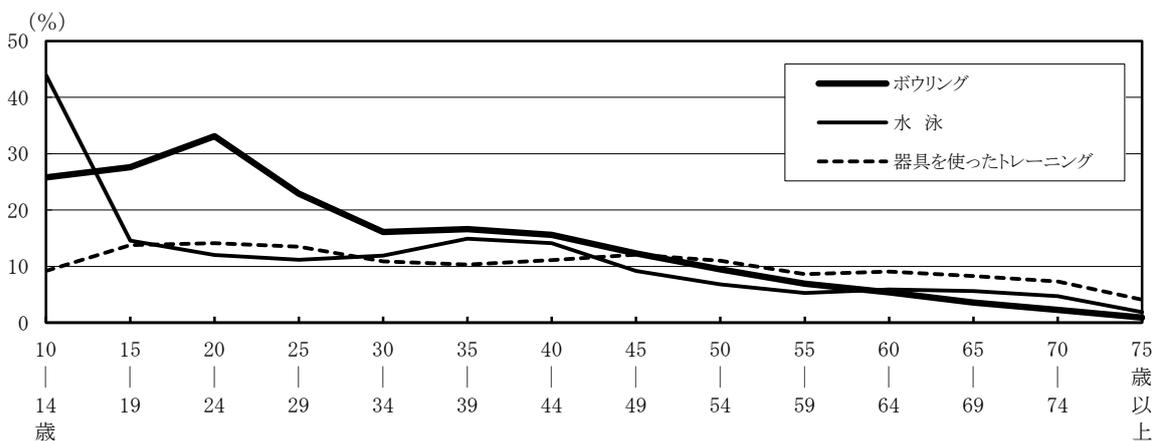
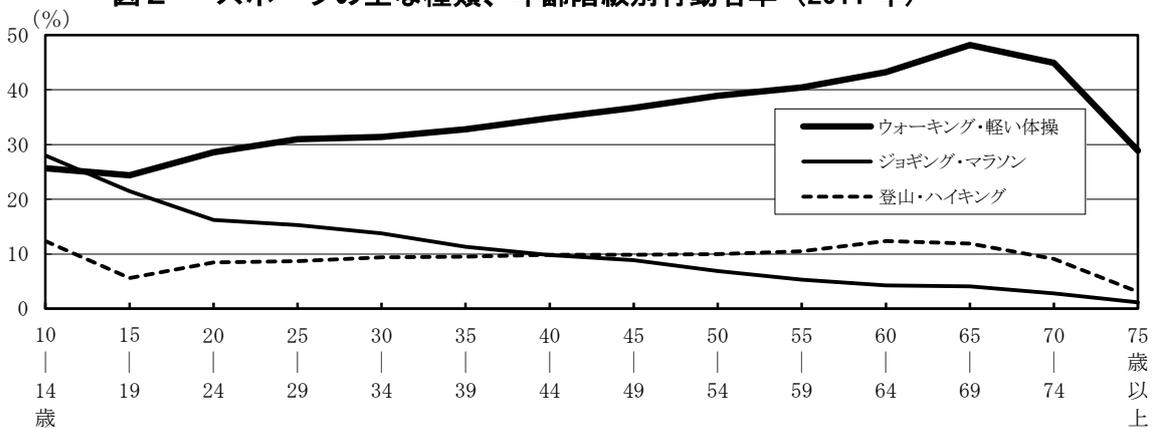
行動者率の高い上位の6種目のスポーツについて、年齢階級別にみると、比較的に手軽にできて、若年層から高齢層まで幅広く行えるスポーツが多いようです。（図2）

図1 男女、スポーツの種類別行動者率（2011年）



注) 図1は行動者率が3%以上の種類を表章。

図2 スポーツの主な種類、年齢階級別行動者率（2011年）



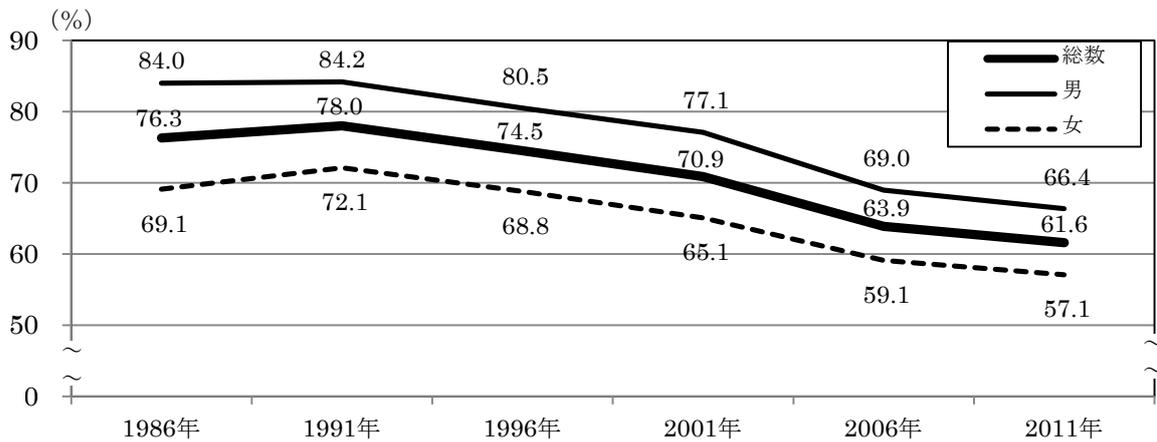
注) 年齢階級別の上位10種目の順位と行動者率は別添の参考資料を参照。

## 2 スポーツをした人の割合の推移

### スポーツをした人の割合は20年間で一貫して低下

過去 25 年間で比較可能なスポーツの行動者率（15 歳以上）の推移を男女別にみると、1991 年はバブル景気の始まる直前の 1986 年に比べ男女共に上昇し、その後これをピークに 2011 年まで一貫して低下しています。（図 3）

図 3 スポーツの男女別行動者率の推移（1986 年～2011 年）－15 歳以上



前頁の図 1 に掲載した種目のうち、1986 年まで比較可能な主な 12 種目について行動者率の推移を見たものが、図 4～図 6 です。ここでは、主に個人で行うスポーツと団体で行うスポーツに分類し、前者については更にバブル末期の 1991 年に行動者率が最も高かったスポーツとバブル前の 1986 年に行動者率が最も高かったスポーツに分類して比較しました。

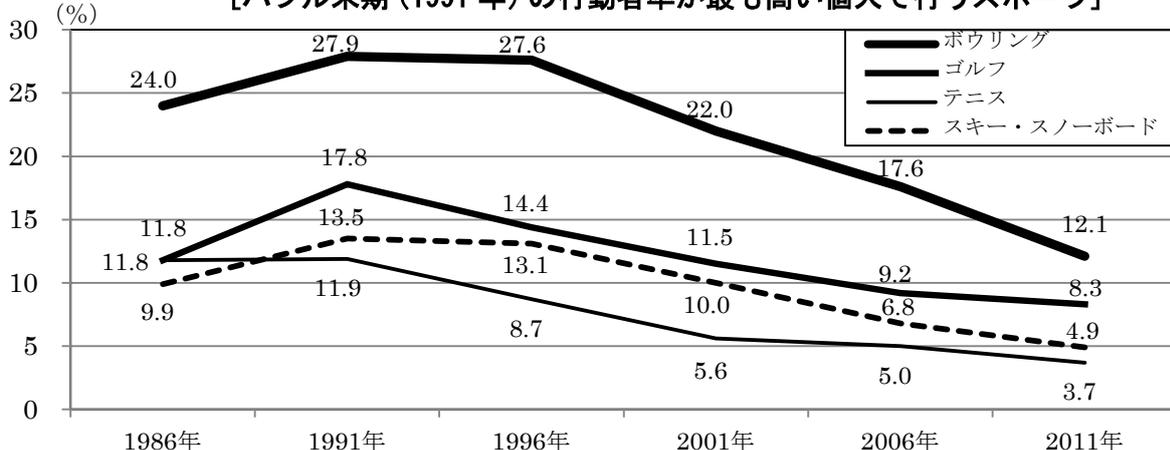
### 【主に個人で行うスポーツ】

#### ゴルフやテニスなどをした人の割合はバブル末期の1991年が最も高い

主に個人で行うスポーツでは、用具や利用施設が必要なゴルフ、テニス、スキー・スノーボードがバブル末期の 1991 年に行動者率が最も高いスポーツに分類されました。一方、手軽にできるボウリングも 1991 年が最も高くなりましたが、バブル崩壊後の 1996 年の行動者率も 1991 年とほぼ同じ水準にあり、ゴルフやテニスとは傾向に違いが見られます。（図 4）

図 4 スポーツの行動者率の推移（1986 年～2011 年）－15 歳以上

〔バブル末期（1991 年）の行動者率が最も高い個人で行うスポーツ〕

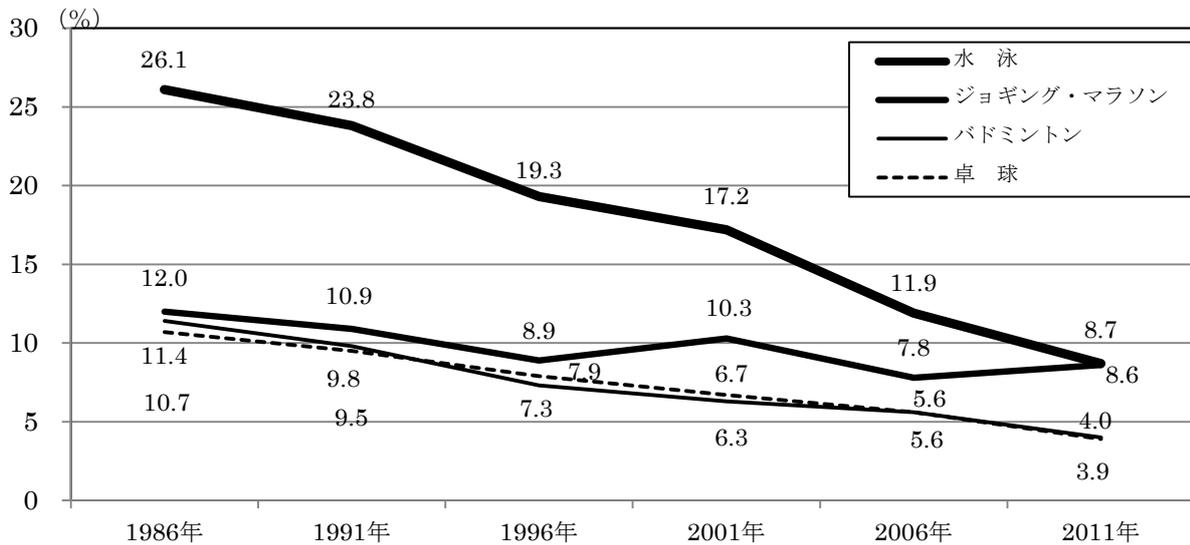


注) 「スキー・スノーボード」は 1991 年までは「スキー」として調査。  
「ゴルフ」には練習場でのプレーも含まれる。

## 水泳やバドミントンなどをした人の割合はバブル前の1986年から低下

バブル前の1986年の行動者率が最も高い個人で行うスポーツでは、水泳、バドミントン、卓球の行動者率が一貫して低下しています。一方、手軽にできるジョギング・マラソンは低下と上昇を繰り返しながらほぼ同じ水準を保っています。(図5)

図5 スポーツの行動者率の推移(1986年～2011年) -15歳以上  
[バブル前(1986年)の行動者率が最も高い個人で行うスポーツ]



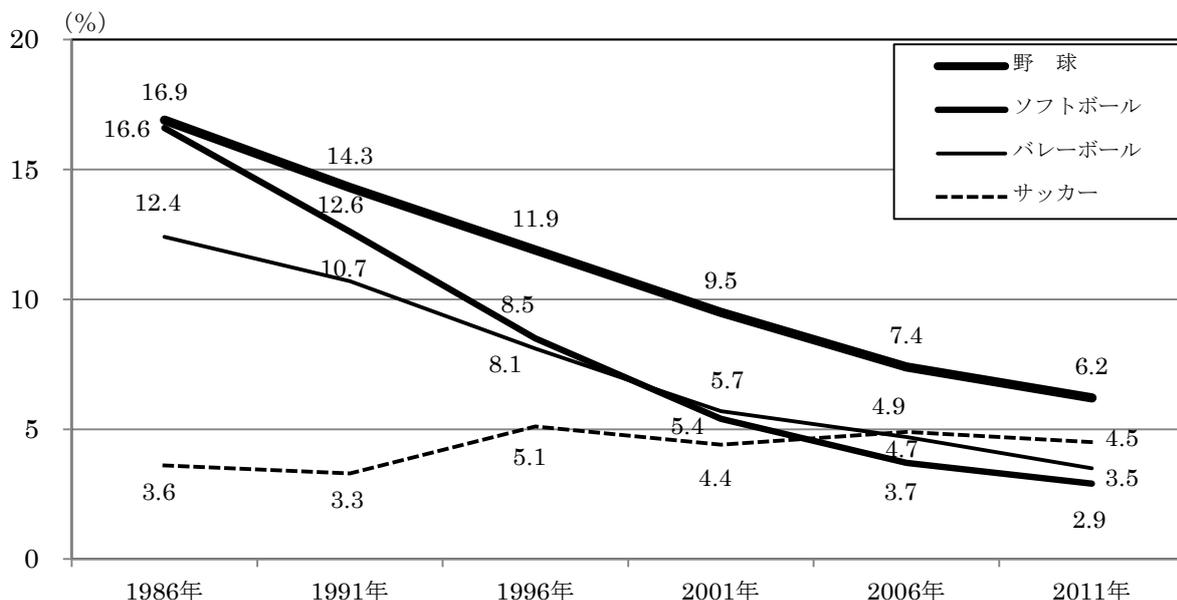
## 【団体で行うスポーツ】

## サッカーをした人の割合は上昇傾向、野球とバレーボールは低下傾向

団体で行うスポーツでは、サッカーの行動者率が僅かに上昇傾向を見せているのに対し、野球、ソフトボールとバレーボールの行動者率は一貫して低下しています。(図6)

サッカーは1993年にプロリーグであるJリーグが開幕し、1996年には行動者率が最も高くなり、その後やや停滞しているものの、ほぼ同じ水準を保っています。

図6 スポーツの行動者率の推移(1986年～2011年) -15歳以上 [団体で行うスポーツ]

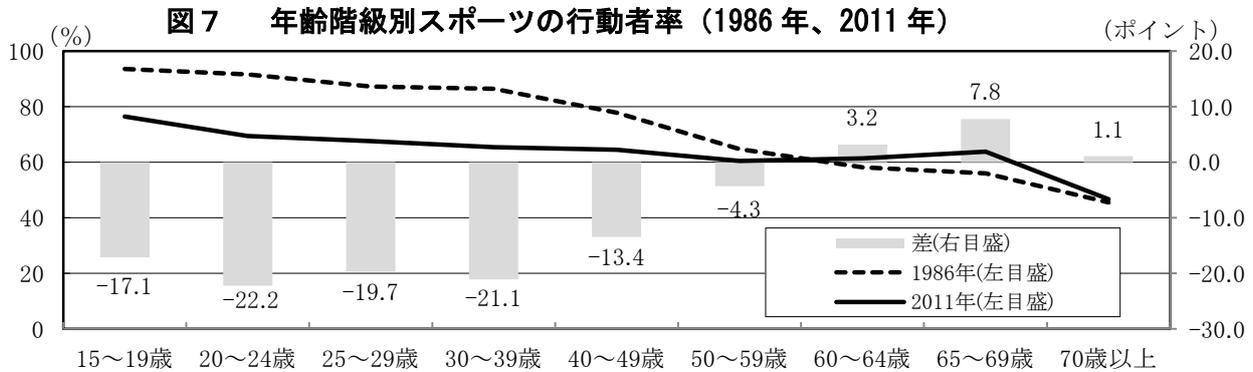


注)「野球」にはキャッチボールも含まれる。  
「サッカー」にはフットサルも含まれる。

### 3 年齢階級別にみたスポーツをした人の割合の変化

**20～30歳代でスポーツをした人の割合は25年前と比べ約20ポイント低下**

行動者率を年齢階級別に25年前と比較すると、60歳以上で上昇、60歳未満で低下し、特に20～30歳代は約20ポイント低下しています。(図7)



### 登山・ハイキングは今も25年前も60歳以上で盛んに行われている

1986年と比較可能な主な15種目について、15歳以上の行動者率の上位3種目を比較すると、1986年は水泳、ボウリング、野球の順位となっており、2011年はボウリング、器具を使ったトレーニング、登山・ハイキングの順位となっています。

年齢階級別に最も行動者率が高い種目をみると、1986年では、50歳未満が水泳とボウリング、50歳以上が登山・ハイキングとなっています。一方、2011年では、50歳未満がボウリング、50歳代がゴルフ、60歳以上が登山・ハイキングとなっています。

2011年では、50歳以上のゴルフや登山・ハイキングなど、特定の年齢階級で引き続き盛んな種目もありますが、1986年に上位にあった40歳未満のボウリングのように行動者率が大きく低下した種目や、20歳代のジョギング・マラソンとサッカーのように順位が大きく変動した種目もあります。(表)

**表 年齢階級別スポーツの主な種目の行動者率・順位 (1986年、2011年)**

種目	総数 (15歳以上)		15～19歳		20～24歳		25～29歳		30～39歳											
	順位	行動者率	順位	行動者率	順位	行動者率	順位	行動者率	順位	行動者率										
	1986年	2011年	1986年	2011年	1986年	2011年	1986年	2011年	1986年	2011年										
水泳	1	26.1	4	8.7	1	54.9	5	14.6	21	50.3	7	12.0	1	41.2	6	11.2	1	38.7	2	13.5
ボウリング	2	24.0	1	12.1	2	47.1	1	27.6	1	61.6	1	33.1	1	41.2	1	22.9	2	26.5	1	16.4
野球	3	16.9	8	6.2	5	32.4	4	16.4	4	14.7	3	14.7	4	25.1	7	9.9	3	23.7	6	9.4
ソフトボール	4	16.6	15	2.9	6	31.3	12	7.3	6	25.5	14	5.7	6	21.1	15	3.8	4	22.3	14	3.5
登山・ハイキング	5	14.2	3	9.0	12	16.6	14	5.6	11	15.6	11	8.5	8	15.3	10	8.7	5	19.3	6	9.4
バレーボール	6	12.4	14	3.5	3	45.6	6	13.8	9	19.2	13	8.1	11	13.5	14	4.6	8	14.1	12	4.5
ジョギング・マラソン	7	12.0	5	8.6	4	34.4	2	21.5	10	16.5	2	16.2	12	12.9	2	15.3	9	13.6	3	12.5
ゴルフ	8	11.8	7	8.3	15	5.3	15	2.5	13	14.4	14	5.7	7	20.3	9	9.1	6	17.3	6	9.4
テニス	8	11.8	13	3.7	8	27.9	9	13.1	3	37.6	11	8.5	3	26.4	13	5.0	12	10.8	14	3.5
パドミントン	10	11.4	11	4.0	9	27.5	6	13.8	8	20.0	8	10.0	9	14.5	11	7.2	7	16.6	11	5.7
卓球	11	10.7	12	3.9	7	28.7	10	11.6	7	20.8	10	8.6	10	14.4	12	5.3	11	11.1	13	3.8
スキー・スノーボード	12	9.9	9	4.9	13	14.4	13	7.0	5	28.3	6	12.5	5	23.8	4	11.9	10	12.8	9	7.6
器具を使ったトレーニング	13	6.8	2	9.9	11	18.4	6	13.8	12	14.5	5	14.1	13	9.8	3	13.5	14	5.6	5	10.6
サイクリング	14	6.6	6	8.4	14	12.5	11	10.4	14	7.9	9	9.9	14	5.8	8	9.8	13	9.0	4	11.8
サッカー	15	3.6	10	4.5	10	21.7	3	16.6	15	6.2	4	14.2	15	3.2	5	11.5	15	2.2	10	7.2

種目	40～49歳		50～59歳		60～64歳		65～69歳		70歳以上											
	順位	行動者率	順位	行動者率	順位	行動者率	順位	行動者率	順位	行動者率										
	1986年	2011年	1986年	2011年	1986年	2011年	1986年	2011年	1986年	2011年										
水泳	2	19.4	2	11.9	5	6.6	7	6.0	4	3.6	5	5.9	4	2.2	5	5.6	6	0.6	5	2.9
ボウリング	1	19.7	1	14.1	4	8.7	4	8.2	6	3.0	6	5.4	7	1.4	7	3.6	7	0.5	8	1.4
野球	4	16.9	8	8.0	6	5.7	8	3.0	9	2.0	8	2.3	9	0.9	9	1.8	8	0.4	9	0.7
ソフトボール	3	18.4	14	3.7	3	8.8	10	2.7	8	2.5	10	2.1	9	0.9	11	1.3	10	0.2	11	0.5
登山・ハイキング	5	16.6	6	9.9	1	11.9	2	10.3	1	9.6	1	12.4	1	6.8	1	11.9	1	3.0	1	5.2
バレーボール	10	9.0	12	4.3	11	3.1	13	2.5	13	0.8	13	1.1	13	0.3	13	0.7	13	0.1	13	0.3
ジョギング・マラソン	7	11.0	7	9.4	7	5.5	6	6.1	3	3.7	7	4.3	2	2.4	6	4.1	2	1.2	6	1.8
ゴルフ	6	15.9	5	10.0	2	9.5	1	11.2	2	4.6	2	10.6	2	2.4	2	9.5	5	0.9	3	4.4
テニス	13	5.4	11	4.5	13	2.0	8	3.0	13	0.8	11	1.9	12	0.4	10	1.7	10	0.2	10	0.6
パドミントン	8	9.9	10	4.9	12	2.2	14	1.9	11	1.2	13	1.1	11	0.7	13	0.7	10	0.2	13	0.3
卓球	9	9.4	13	3.9	8	4.1	12	2.6	10	1.7	9	2.2	8	1.2	8	2.8	8	0.4	7	1.7
スキー・スノーボード	12	5.9	9	6.5	14	1.9	10	2.7	12	0.9	12	1.8	13	0.3	12	1.0	13	0.1	12	0.4
器具を使ったトレーニング	14	4.6	3	11.6	10	3.6	3	9.8	6	3.0	3	9.1	6	1.8	3	8.3	2	1.2	1	5.2
サイクリング	11	7.1	4	11.4	8	4.1	5	7.3	5	3.4	4	7.0	5	2.1	4	6.8	4	1.1	4	3.3
サッカー	15	0.9	15	3.6	15	0.2	15	1.2	15	0.1	15	0.4	15	0.1	15	0.2	13	0.1	15	0.1

前記の15種目のスポーツを年齢階級別に25年前と比較し、行動者率の変化の違いにより、

- ①20歳以上の年齢階級で行動者率が上昇したスポーツ
- ②20歳以上の年齢階級で行動者率の変化が少ないスポーツ
- ③50歳未満で行動者率が大きく低下し、特に15～19歳で最も低下したスポーツ
- ④50歳未満で行動者率が大きく低下し、特に20歳代で最も低下したスポーツ

に分類して種目ごとの特徴を見ました。

### 【①20歳以上の年齢階級で行動者率が上昇したスポーツ】

#### サイクリングやサッカーをした人の割合は20歳以上で上昇

主に個人で行うスポーツにおいて、15～19歳の行動者率は低下したものの、20歳以上の年齢階級で上昇している種目は、サイクリングで、20歳以上の年齢階級で2ポイント以上上昇しています。また、器具を使ったトレーニングの行動者率は、15～24歳では低下しているものの、25歳以上の年齢階級では上昇しています。(図8、図9)

一方、団体で行うスポーツでは、サッカーが20歳以上の年齢階級で上昇し、特に20歳代では8ポイント以上上昇しています。サッカーは20～59歳で野球とは対照的な変化を示しています。(図10、図18)

図8 年齢階級別サイクリングの行動者率（1986年、2011年）

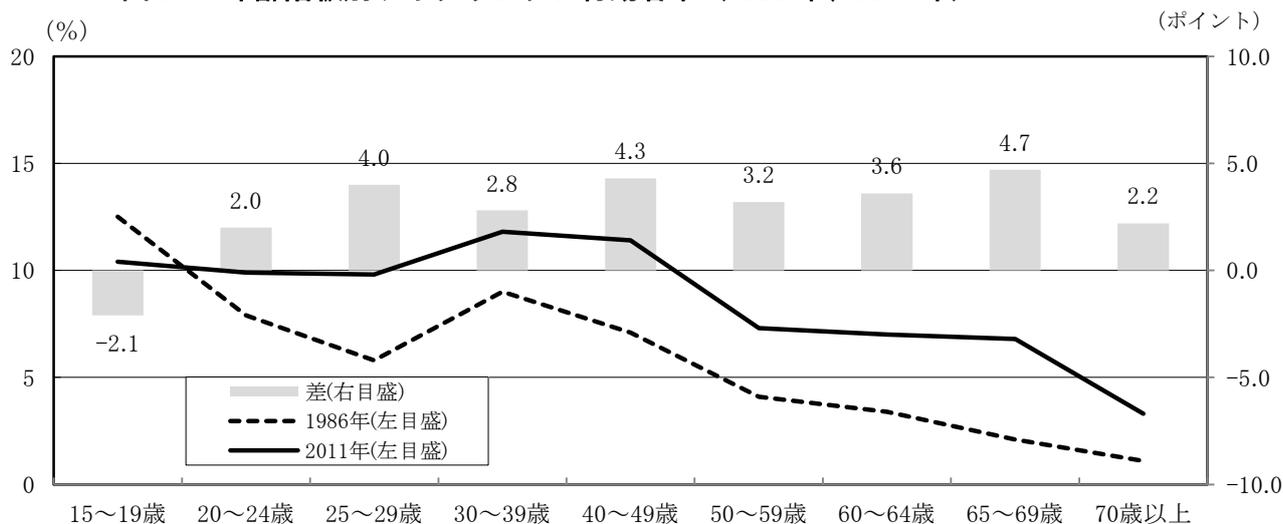
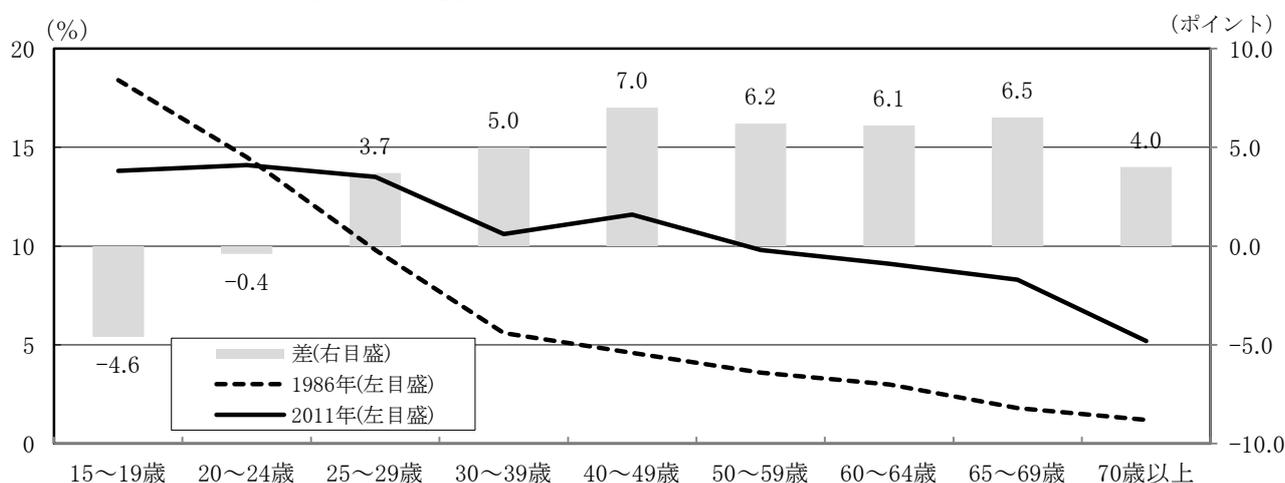
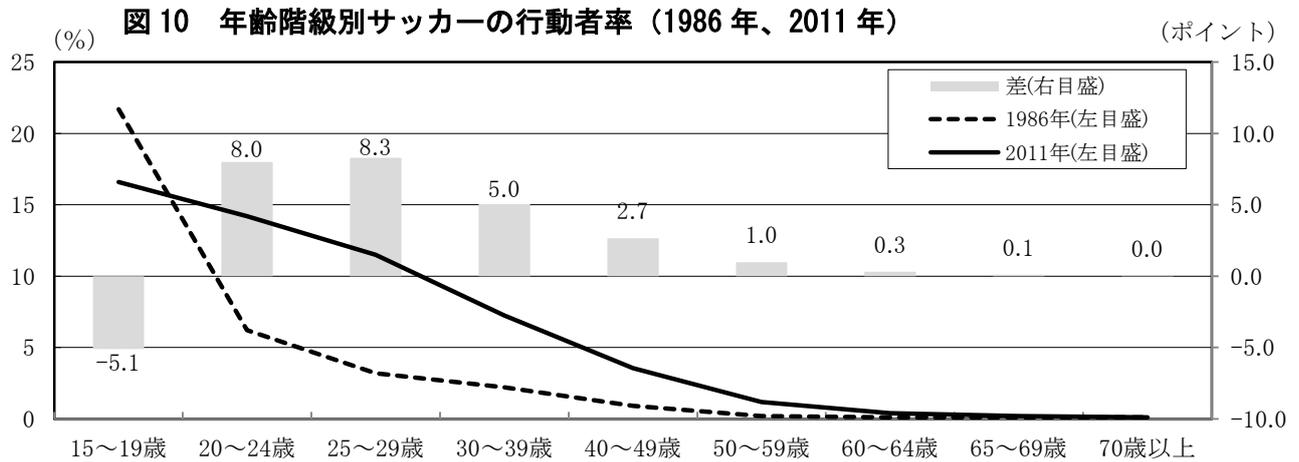


図9 年齢階級別器具を使ったトレーニングの行動者率（1986年、2011年）

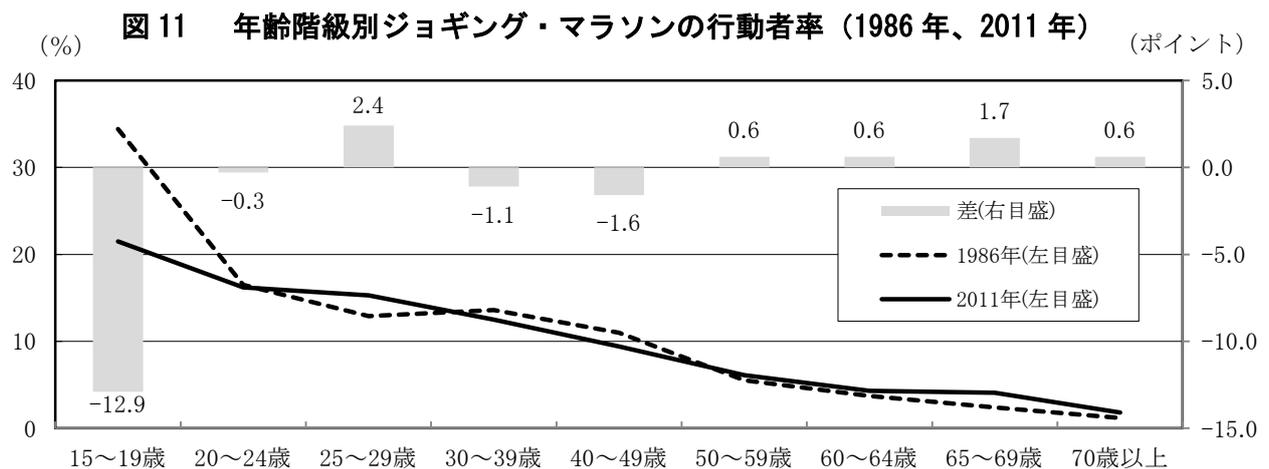




**【②20歳以上の年齢階級で行動者率の変化が少ないスポーツ】**

**20歳以上で変化の少ないジョギング・マラソンをした人の割合**

15~19歳の行動者率は低下したものの、20歳以上の年齢階級では比較的に変化が少ない種目は、ジョギング・マラソンで、今も25年前も20歳以上の人から一定の支持が得られていることがうかがわれます。(図11)



**【③50歳未満で行動者率が大きく低下し、特に15~19歳で最も低下したスポーツ】**

**水泳をした人の割合は15~19歳で40ポイント以上低下**

主に個人で行うスポーツにおいて、行動者率が50歳未満で大きく低下した種目は、水泳、卓球、バドミントン、登山・ハイキングで、特に15~19歳で最も低下しています。水泳の15~19歳の行動者率は40ポイント以上低下しています。(図12~15)

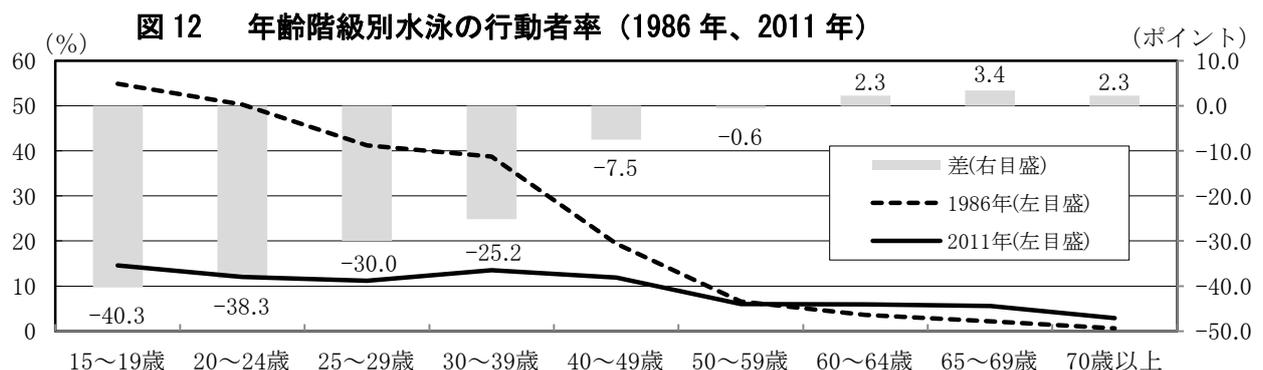


図13 年齢階級別卓球の行動者率（1986年、2011年）

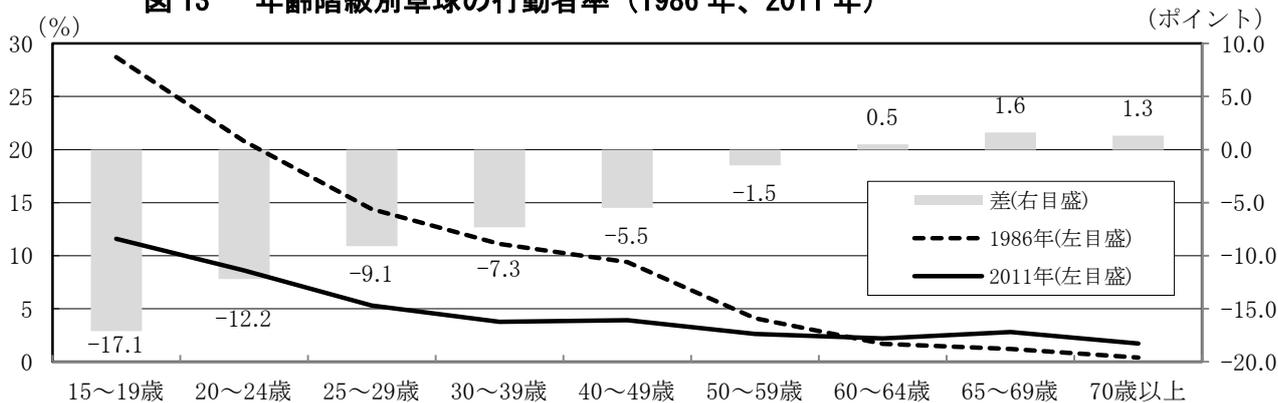


図14 年齢階級別バドミントンの行動者率（1986年、2011年）

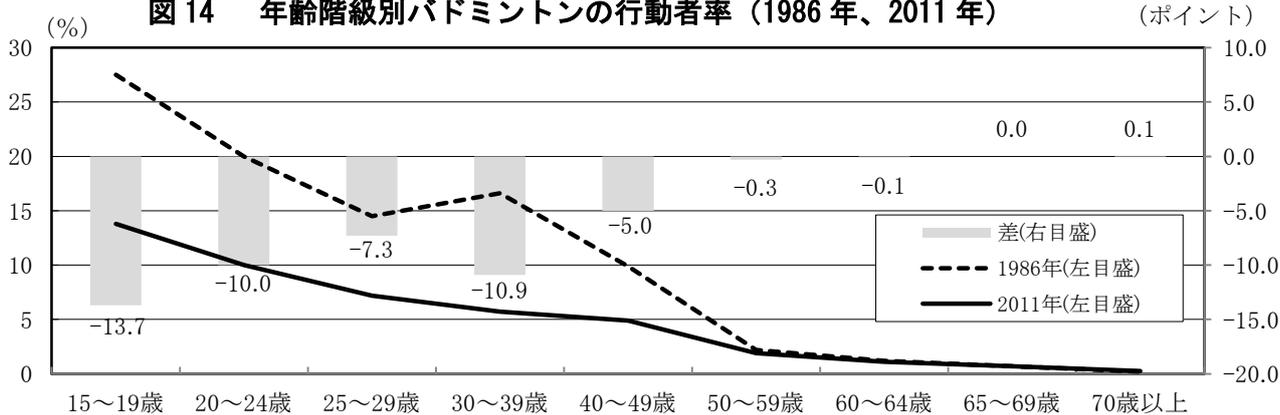
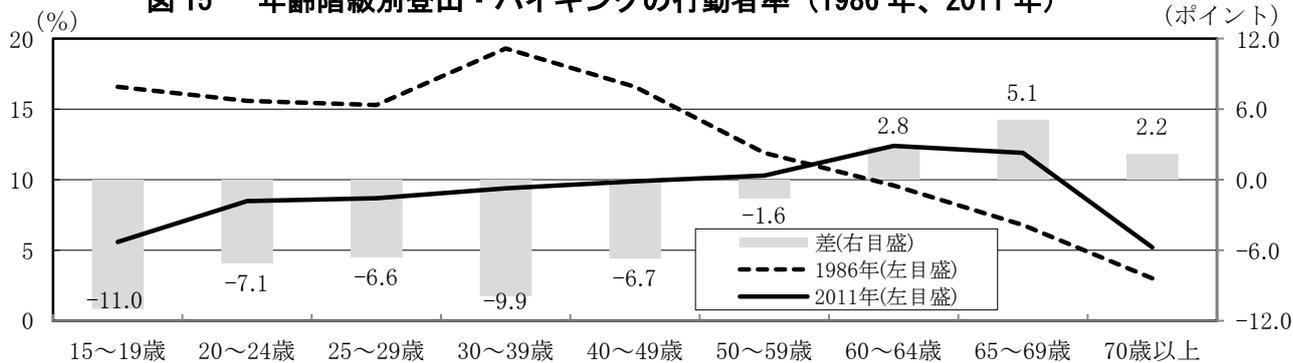


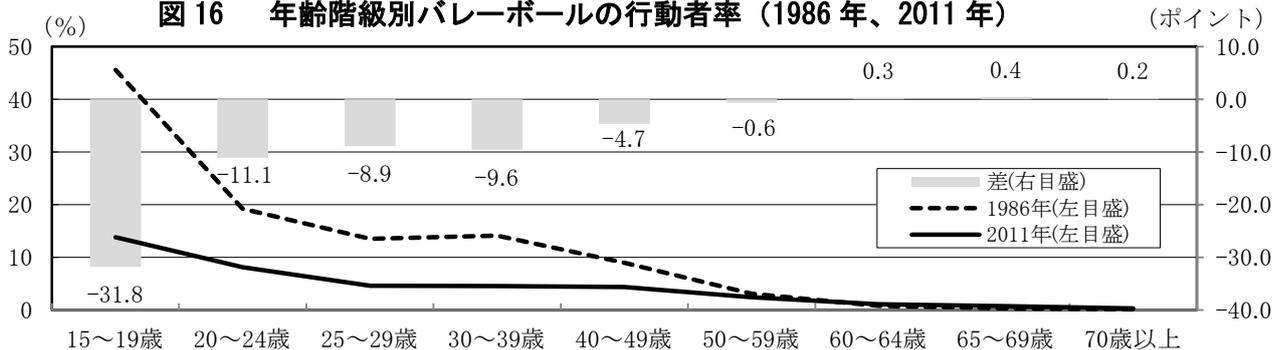
図15 年齢階級別登山・ハイキングの行動者率（1986年、2011年）

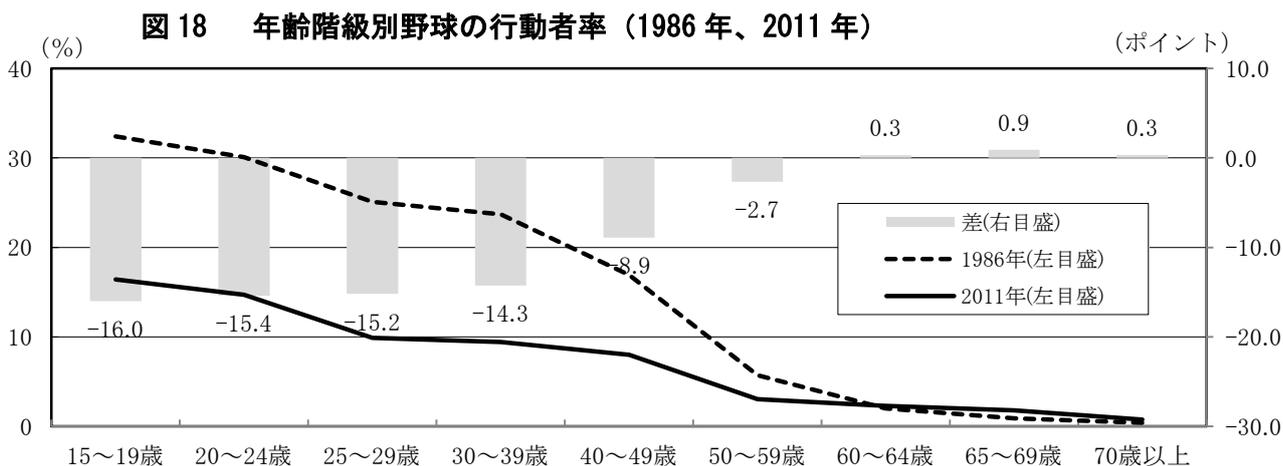
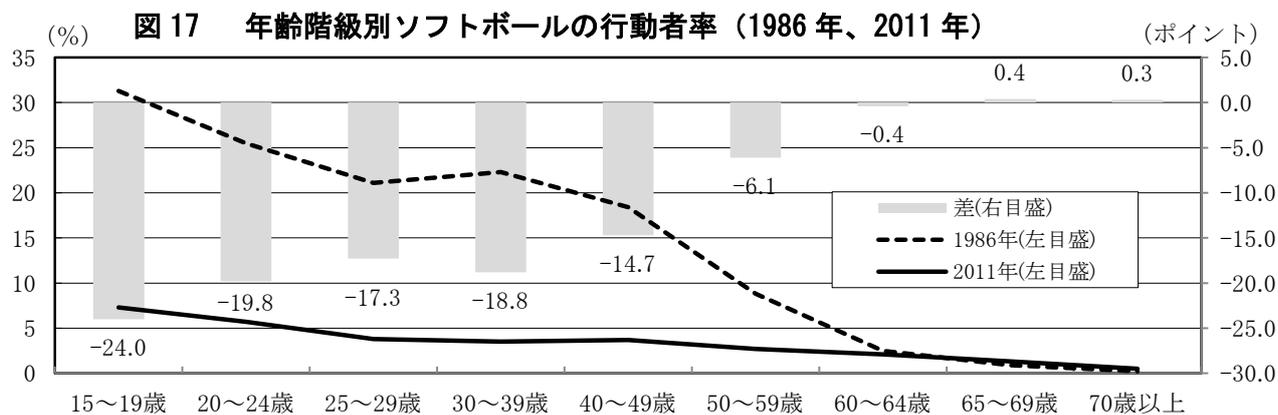


**バレーボールをした人の割合は15~19歳で30ポイント以上低下**

団体で行うスポーツにおいて、50歳未満の行動者率が大きく低下した種目は、バレーボール、ソフトボール、野球となっています。バレーボールは15~19歳で30ポイント以上低下し、ソフトボールは50歳未満、野球は40歳未満という広範な年齢階級で10ポイント以上低下しています。(図16~図18)

図16 年齢階級別バレーボールの行動者率（1986年、2011年）





**【④50歳未満で行動者率が大きく低下し、特に20歳代で最も低下したスポーツ】**  
**ゴルフをした人の割合は25~29歳で、テニス、ボウリング、スキー・スノーボードをした人の割合は20~24歳で最も低下**

50歳未満で行動者率が大きく低下したスポーツのうち、25~29歳で最も低下した種目はゴルフで、20~24歳で最も低下した種目は、テニス、ボウリング、スキー・スノーボードです。これらの4種目は、バブル末期の1991年の行動者率が最も高かったことから、1991年と比較したところ、ゴルフ、スキー・スノーボード、テニスは20歳代では共に20ポイント以上低下し、ボウリングは15歳~24歳で30ポイント以上低下していることが分かります。(図19~図22)

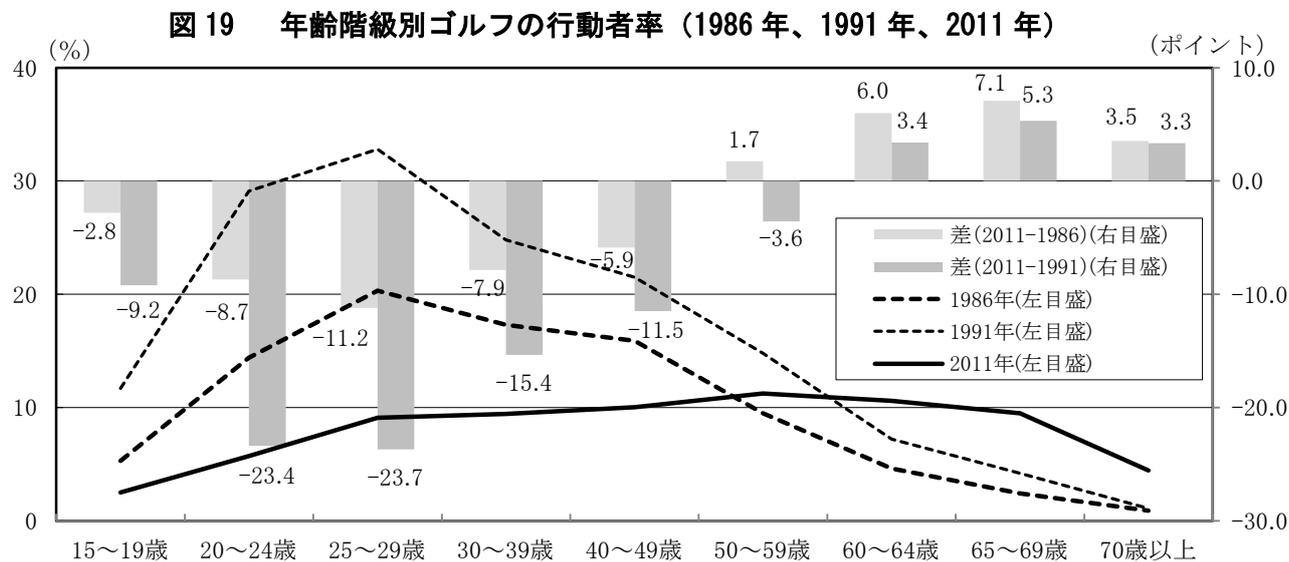


図20 年齢階級別スキー・スノーボードの行動者率（1986年、1991年、2011年）

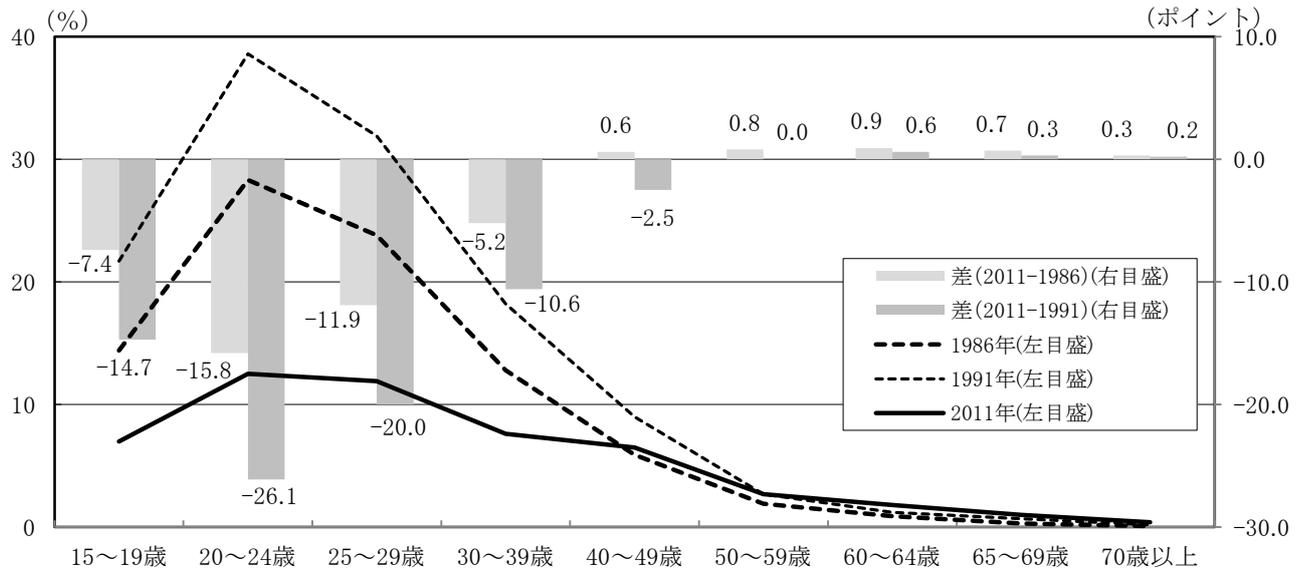


図21 年齢階級別テニスの行動者率（1986年、1991年、2011年）

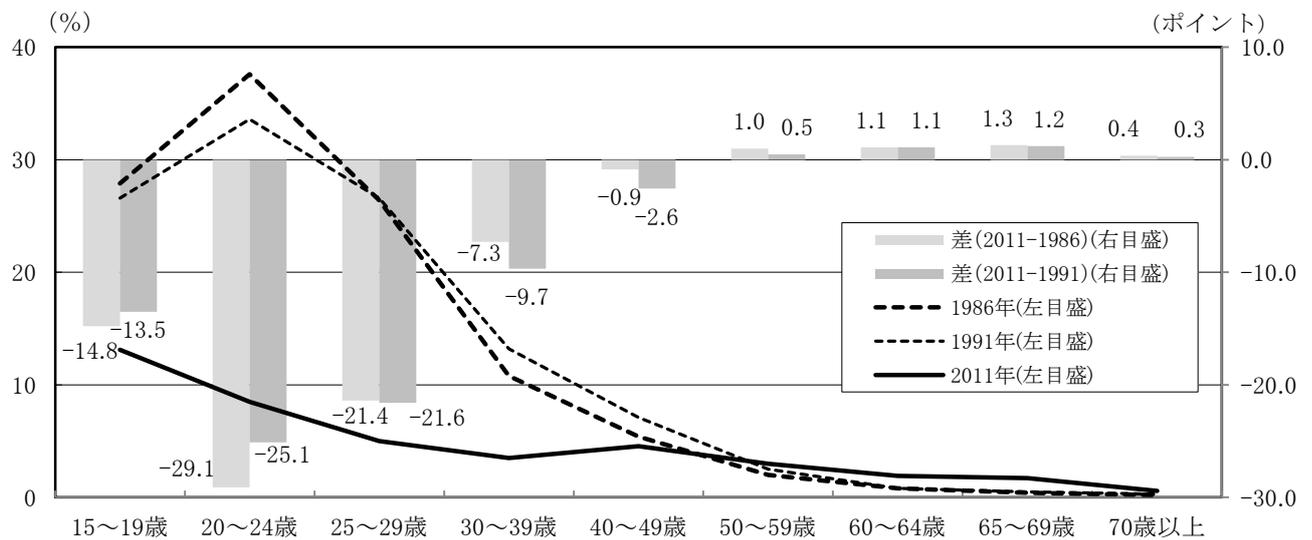
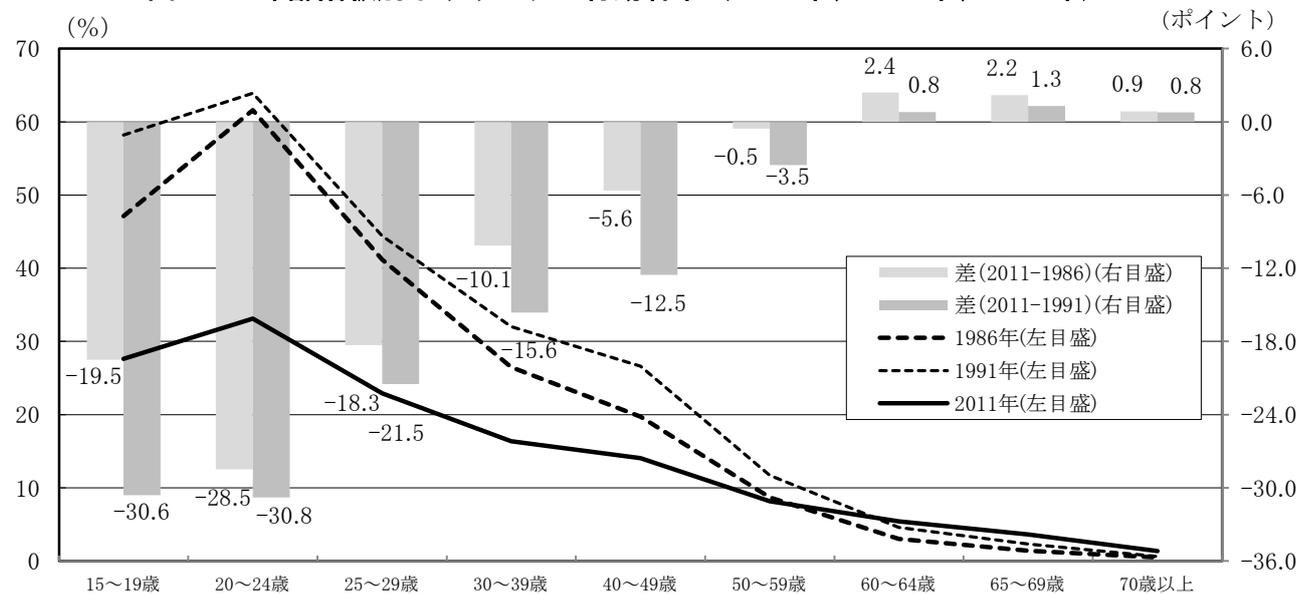


図22 年齢階級別ボウリングの行動者率（1986年、1991年、2011年）

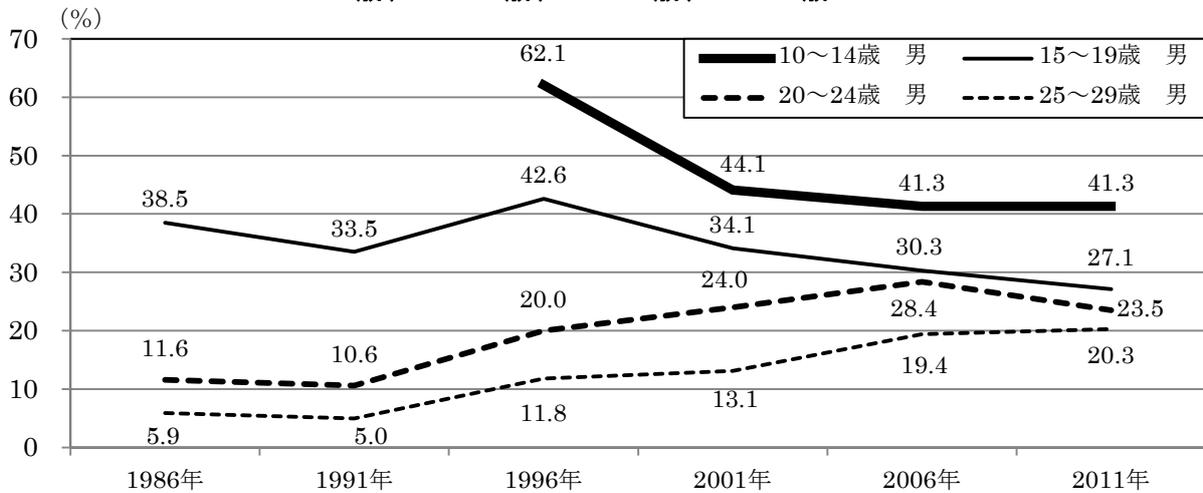


## 4 若年層におけるサッカーをした人の割合の推移

**サッカーをした男性の割合は、1996年以降、10歳代で低下、20歳代で上昇傾向**

近年、行動者率が上昇傾向にあるサッカーについて、30歳未満の行動者率の推移を男女、年齢階級別にみると、男性の10歳代はJリーグ発足後の1996年に最も高くなり、その後低下していますが、10～14歳は下げ止まる傾向が見られます。20歳代は20～24歳で2011年に行動者率が低下したものの、1996年以降は上昇傾向が見られます。2011年の25～29歳は1996年当時の10～14歳に当たることから、当時の3分の1弱の人は現在も引き続きサッカーを楽しんでいることとなります。(図23)

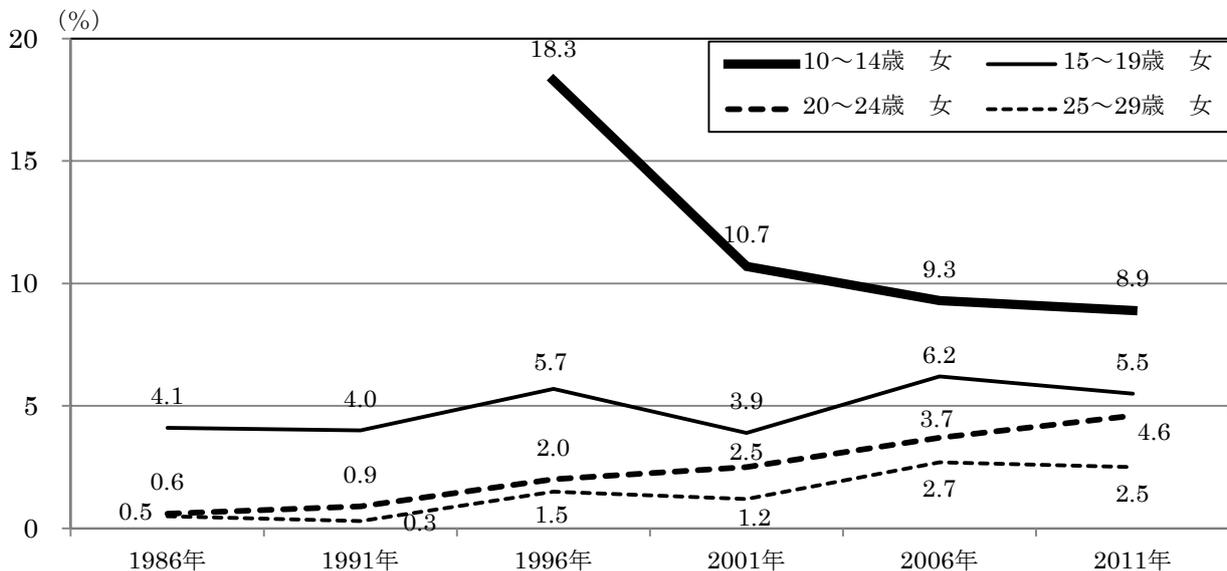
**図23 年齢階級別男子のサッカーの行動者率の推移（1986年～2011年）**  
 -10～14歳、15～19歳、20～24歳、25～29歳



**サッカーをした女性の割合は、1986年以降、20～24歳で一貫して上昇**

一方、女性のサッカーの行動者率は、10～14歳で1996年以降一貫して低下しているものの、15～29歳では上昇傾向が見られます。特に、20～24歳は1986年の0.6%から一貫して上昇し、2011年には4.6%と7倍以上になっています。(図24)

**図24 年齢階級別女子のサッカーの行動者率の推移（1986年～2011年）**  
 -10～14歳、15～19歳、20～24歳、25～29歳



別添

(参考)年齢階級別上位10種目のスポーツの順位と行動者率(2011年)

(%)

総数 (10歳以上)			10～14歳			15～19歳		
順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率
1	ウォーキング・軽い体操	35.2	1	水泳	44.0	1	ボウリング	27.6
2	ボウリング	12.8	2	ジョギング・マラソン	28.0	2	ウォーキング・軽い体操	24.4
3	水泳	10.5	3	ボウリング	25.8	3	ジョギング・マラソン	21.5
4	器具を使ったトレーニング	9.9	4	ウォーキング・軽い体操	25.7	4	バスケットボール	16.7
5	ジョギング・マラソン	9.6	5	サッカー	25.5	5	サッカー	16.6
6	登山・ハイキング	9.2	6	野球	24.8	6	野球	16.4
7	サイクリング	8.9	7	バスケットボール	18.4	7	水泳	14.6
8	ゴルフ	8.1	8	バドミントン	18.0	8	バレーボール	13.8
8	つり	8.1	9	サイクリング	17.7	8	バドミントン	13.8
10	野球	7.1	10	つり	16.9	8	器具を使ったトレーニング	13.8

20～24歳			25～29歳			30～34歳		
順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率
1	ボウリング	33.1	1	ウォーキング・軽い体操	31.0	1	ウォーキング・軽い体操	31.4
2	ウォーキング・軽い体操	28.6	2	ボウリング	22.9	2	ボウリング	16.1
3	ジョギング・マラソン	16.2	3	ジョギング・マラソン	15.3	3	ジョギング・マラソン	13.8
4	野球	14.7	4	器具を使ったトレーニング	13.5	4	水泳	11.9
5	サッカー	14.2	5	スキー・スノーボード	11.9	5	サイクリング	11.0
6	器具を使ったトレーニング	14.1	6	サッカー	11.5	6	器具を使ったトレーニング	10.9
7	スキー・スノーボード	12.5	7	水泳	11.2	7	ゴルフ	9.6
8	水泳	12.0	8	野球	9.9	8	野球	9.5
9	バドミントン	10.0	9	サイクリング	9.8	9	登山・ハイキング	9.4
10	バスケットボール	9.9	10	つり	9.7	10	つり	9.1
10	サイクリング	9.9						

35～39歳			40～44歳			45～49歳		
順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率
1	ウォーキング・軽い体操	32.8	1	ウォーキング・軽い体操	34.8	1	ウォーキング・軽い体操	36.7
2	ボウリング	16.6	2	ボウリング	15.6	2	ボウリング	12.3
3	水泳	14.9	3	水泳	14.1	3	器具を使ったトレーニング	12.1
4	サイクリング	12.4	4	サイクリング	12.2	4	サイクリング	10.5
5	つり	11.7	5	つり	11.4	5	ゴルフ	9.9
6	ジョギング・マラソン	11.3	6	器具を使ったトレーニング	11.1	5	登山・ハイキング	9.9
7	器具を使ったトレーニング	10.3	7	ゴルフ	10.1	7	水泳	9.2
8	登山・ハイキング	9.5	8	登山・ハイキング	9.9	8	ジョギング・マラソン	8.9
9	野球	9.4	9	ジョギング・マラソン	9.8	9	つり	8.3
10	ゴルフ	9.3	10	野球	9.2	10	野球	6.6

50～54歳			55～59歳			60～64歳		
順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率
1	ウォーキング・軽い体操	38.9	1	ウォーキング・軽い体操	40.4	1	ウォーキング・軽い体操	43.2
2	ゴルフ	11.8	2	ゴルフ	10.7	2	登山・ハイキング	12.4
3	器具を使ったトレーニング	11.0	3	登山・ハイキング	10.5	3	ゴルフ	10.6
4	登山・ハイキング	10.0	4	器具を使ったトレーニング	8.6	4	器具を使ったトレーニング	9.1
5	ボウリング	9.5	5	つり	7.2	5	つり	7.1
6	サイクリング	7.9	6	ボウリング	6.9	6	サイクリング	7.0
7	つり	7.4	7	サイクリング	6.7	7	水泳	5.9
8	ジョギング・マラソン	6.9	8	水泳	5.3	8	ボウリング	5.4
9	水泳	6.8	8	ジョギング・マラソン	5.3	9	その他	4.8
10	その他	4.7	10	その他	4.3	10	ジョギング・マラソン	4.3

65～69歳			70～74歳			75歳以上		
順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率	順位	種目	行動者率
1	ウォーキング・軽い体操	48.2	1	ウォーキング・軽い体操	44.9	1	ウォーキング・軽い体操	28.9
2	登山・ハイキング	11.9	2	登山・ハイキング	9.1	2	その他	5.1
3	ゴルフ	9.5	3	その他	7.6	3	器具を使ったトレーニング	4.1
4	器具を使ったトレーニング	8.3	4	器具を使ったトレーニング	7.3	4	登山・ハイキング	3.1
5	つり	7.0	5	ゴルフ	7.1	5	ゴルフ	3.0
6	サイクリング	6.8	6	サイクリング	5.5	6	ゲートボール	2.4
7	その他	6.7	7	つり	5.2	7	サイクリング	2.2
8	水泳	5.6	8	水泳	4.7	8	水泳	1.9
9	ジョギング・マラソン	4.1	9	卓球	2.8	9	つり	1.8
10	ボウリング	3.6	9	ジョギング・マラソン	2.8	10	卓球	1.2
						10	ジョギング・マラソン	1.2



## 社会生活基本調査とは

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間における主な活動について調査し、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とし、昭和 51 年の第 1 回調査以来 5 年ごとに実施している統計調査です。

平成 23 年社会生活基本調査は、全国の世帯から無作為に選定した約 8 万 3 千世帯に居住する 10 歳以上の世帯員約 20 万人を対象に、平成 23 年 10 月 20 日現在で実施しました。

生活行動（自由時間における主な活動）に関する結果は平成 24 年 7 月 13 日、生活時間に関する結果は、平成 24 年 9 月 26 日に公表しました。なお、詳細な生活時間に関する結果は平成 24 年 12 月に公表する予定です。

(内容に関する問合せ先)



総務省統計局 統計調査部 労働力人口統計室 研究分析係

〒162-8668 東京都新宿区若松町19番1号

TEL : (代表) 03-5273-2020 内線34559

(直通) 03-5273-1163

FAX : 03-5273-1184

### 平成 23 年社会生活基本調査ホームページ

URL <http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/index.htm>

※平成 23 年社会生活基本調査についての詳しい説明は、総務省統計局のホームページで  
ご覧いただけます。

社会生活基本調査

検索



「政府統計の総合窓口 (e-Stat)」(<http://www.e-stat.go.jp/>) でも統計データ等の各種情報が御覧いただけます。  
本冊子に掲載されたデータを引用・転載する場合には、出典の表記 (例: 総務省統計局「平成 23 年社会生活基本調査」より引用) をお願いいたします。